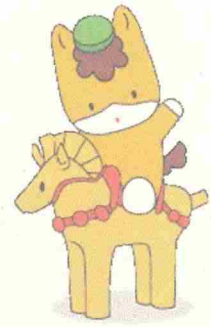


令和2年度 東国文化自由研究レポート



研究テーマ

なぜ県内で出土した埴輪は
質・量ともに日本一と言えるのか？

提出日 令和2年8月24日



伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校

1年 3組 25番

氏名 橋本 美佳

なぜ県内で出土した埴輪は質・量ともに日本一と言えるのか？

伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校 1年 橋本 美佳

1. 調査の動機や目的

1-1. 調査の動機

私は、学校で配布された『東国文化副読本』を読み、埴輪の種類にとっても興味を持ちました。人や馬などたくさんの種類の埴輪があり、また出来栄の良い埴輪から残念な出来かと思う埴輪まで、見ているだけでもとても楽しくなりました。

また、たくさんの埴輪を見て、私が小学生だった頃、家族でよく埼玉県本庄市のお祭りに参加していたことを思い出しました。なぜなら、埴輪と言えば、写真1-1のゆるキャラ「はにぼん」を積極的にPRしている埼玉県や本庄市の方が有名ではないかと思ったからです。

本庄市のホームページで確認したところ、この「はにぼん」のモデルは、本庄市内から出土した、全国的にも珍しい笑う表情を持つ「盾持人物埴輪」だそうです(写真1-2)。

また、この埴輪は、平成24年10月から12月までパリで開催された「日本美術が笑う」展に出品され世界デビューしたようです。愛嬌のある「はにぼん」のモデルは、実はすごい経歴を持った埴輪ではないかと感じました。

そこで、あらためて群馬県のホームページを確認したところ、東国文化自由研究の募集チラシに「県内で出土した埴輪は質・量ともに日本一！」とありました。私は、どうしてそう言えるのか疑問に感じるとともに、群馬県や伊勢崎市から出土した埴輪の価値はどう評価されているのか興味を持ちました。

このため、私の調査の動機は、群馬県や伊勢崎市から出土した埴輪の価値を調査してみたいということでした。

1-2. 調査の目的

調査の目的は、群馬県や伊勢崎市から出土した埴輪の価値を調査することとしました。具体的には、埴輪の価値を2つの観点から調査することとしました。

まず、埴輪の価値の1つ目の観点は、埴輪の価値の質です。埴輪にはたくさんの種類があるということは分かりましたが、人物や動物などの種類の埴輪は、文化財の価値としてどのような高い評価を受けているのかを調査します。

次に、埴輪の価値の2つ目の観点は、埴輪の価値の量です。価値の高い埴輪は、全国各地から出土していますが、群馬県や伊勢崎市からは価値の高い埴輪がどの程度、出土しているのかを調査します。



写真1-1 はにぼん(右)



写真1-2 盾持人物埴輪
(本庄市ホームページ)

2. 調査方法や内容

2-1. 調査方法

調査方法は、図2-1のとおりとしました。

まず、埴輪の見学と学習のため、群馬県内の博物館に行き、実際に埴輪を見て、現地の解説から学びました。博物館としては、赤堀歴史民俗資料館、群馬県立歴史博物館、相川考古館を選びました。

次に、埴輪の価値の調査のため、本や博物館で入手したパンフレットなどの参考文献を調査するとともに、インターネットを活用して調査することとしました。インターネットでは、文化庁、群馬県、伊勢崎市などのホームページを閲覧し、写真やデータを収集しました。

最後に、調査した成果の資料のまとめを行いました。調査のために撮影した写真を整理するとともに、インターネットからダウンロードしたデータを基に図表を作成し、レポートにまとめることとしました。

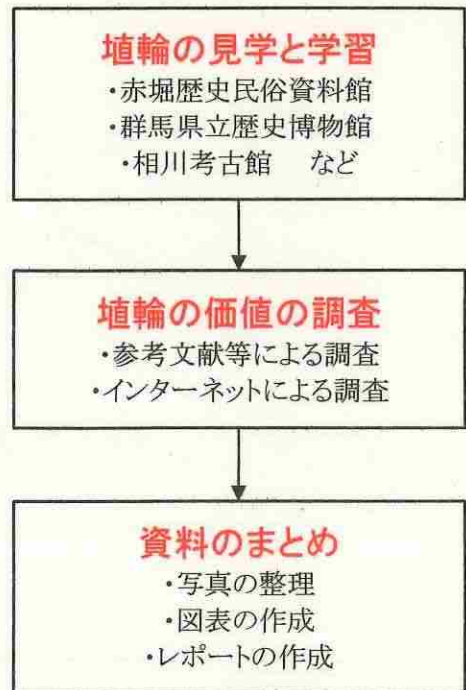


図2-1 調査方法

2-2. 内容

私は、今回の調査を進める中で、埴輪の中でも特に価値の高い、国が指定した文化財に着目することとしました。文化庁のホームページでは、この国が指定した文化財は「国指定文化財」とされており、重要文化財と国宝の2種類に分類されています。

図2-2は、私が今回の調査で閲覧した「国指定文化財データベース」というホームページです。このホームページで調査したいキーワードを入力し、検索することによって、埴輪を含めたさまざまな文化財の情報を得ることができます。

私は、このホームページを活用して、キーワード「埴輪」と「考古資料」の検索結果から、国指定文化財の埴輪についての調査結果をまとめることとしました。

検索の結果については、エクセルの表をダウンロードすることで、埴輪の名称や種類だけでなく、現在の所在地などが一覧で分かります。

しかし、残念なことに、ダウンロードしたエクセルの表では、埴輪の出土場所についての情報が分かりませんでした。

このため、埴輪の名称や所在地を基に、個々の出土場所をインターネットで調査して、エクセルの表に追記しながら埴輪の出土場所をまとめることとしました。



図2-2 国指定文化財データベース (文化庁ホームページ)

3. 調査の結果と考察

3-1. 調査の結果

(1) 埴輪の価値(質)

図3-1は、文化庁のホームページを基に埴輪の価値(質)を図にしたものです。また、5ページの表3-1は、「国指定文化財データベース」を活用して、「埴輪」と「考古資料」の検索結果をダウンロードし、出土場所を調査して追記したものです。

まず、埴輪は、図3-1のように、文化財の中では有形文化財に分類され、その中でも考古資料に属します。さらに、この中でも重要なものとして国が指定したものを重要文化財といいます。そして、この重要文化財の中でも、特に価値が高いと国が指定したものを国宝といいます。

国宝の埴輪は全国に1つだけであり、ほとんどが写真3-1に示すような重要文化財です。重要文化財の埴輪には、人物だけでなく猪や犬や鶏など動物の埴輪も指定されており、全国各地で保存されていることが分かりました。さらに、表3-1の埴輪の出土場所は群馬県が最多であり、県内で出土した埴輪の質が日本一であること、また写真3-1の全てが伊勢崎市内から出土したものであることが分かりました。

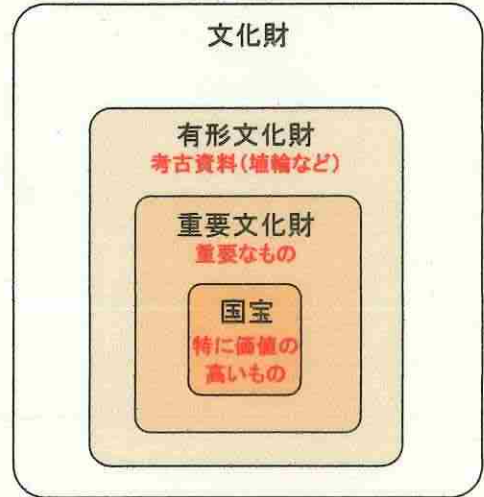


図3-1 埴輪の価値(質)



埴輪武装男子半身像
(所在地:宮城県多賀城市)



埴輪女子立像
(所在地:東京都台東区)



埴輪鷹狩男子像
(所在地:奈良県奈良市)



埴輪猪
(所在地:東京都台東区)



埴輪犬
(所在地:石川県金沢市)



埴輪鶏
(所在地:群馬県高崎市)

写真3-1 重要文化財の埴輪の種類(上:人物 下:動物)

(2) 埴輪の価値(量)

表3-1の結果から、出土した埴輪の価値(量)について、日本全国や群馬県内の地図を用いて出土の割合を分析しました。

表3-1の中の赤文字は、群馬県内を示しています。さらに、所在地が伊勢崎市内の埴輪を黄色セル、出土場所が伊勢崎市内の埴輪を緑色セルで表現しています。

この結果、図3-2に示すように、国指定文化財の埴輪の都道府県別の出土場所としては、群馬県内が最も多いことが分かりました。

具体的には、日本全国43箇所のうち、群馬県内19箇所ということで、全体に占める割合は44%を占めています。

したがって、国指定文化財の埴輪の量は、都道府県別では群馬県内が日本一であることが分かりました。

また、図3-3に示すように、国指定文化財の埴輪の群馬県内の出土場所としては、伊勢崎市内が最も多いことが分かりました。

具体的には、群馬県内19箇所のうち、伊勢崎市内9箇所ということで、全体に占める割合は47%を占めています。

したがって、国指定文化財の埴輪の量は、県内市町村別では伊勢崎市内が県内一であることが分かりました。

これらの結果について、もう一步踏み込んで考えてみると、国指定文化財の埴輪の全国市町村別の出土場所としては、伊勢崎市内が最も多いと言えます。

具体的には、日本全国43箇所のうち、伊勢崎市内9箇所ということで、全体に占める割合は21%を占めています。

したがって、出土した埴輪の量は、都道府県別では群馬県内が日本一、市町村別では伊勢崎市内が日本一ということが分かり、とても驚きました。



図3-2 群馬県内から出土した埴輪の価値(量)



図3-3 伊勢崎市内から出土した埴輪の価値(量)

表3-1 国指定文化財の遺物の一覧表

名称	種別	重要指定年月日	国指定年月日	都道府県	所在地	出土	保管施設の名称
1 埴輪雲葉團	重要文化財	19590627		宮城県	宮城県仙台市青葉区片平2-1-1	宮城県名取市下増田大字杉ヶ谷出土	国立大学法人東北大学
2 埴輪円筒	重要文化財	19590627		宮城県	宮城県仙台市青葉区片平2-1-1	宮城県名取市下増田大字杉ヶ谷出土	国立大学法人東北大学
3 埴輪武装男子半身像	重要文化財	19400503		宮城県	宮城県仙台市青葉区高崎1-22-1	宮城県仙台市青葉区片平2-1-1	東北歴史博物館
4 埴輪甲	重要文化財	19590627		宮城県	宮城県仙台市青葉区片平2-1-1	宮城県名取市下増田大字杉ヶ谷出土	国立大学法人東北大学
5 埴輪男子胡坐像	重要文化財	19590627		福島県		福島県平野市大字神中作字腰巻出土	国立大学法人東北大学
6 上野塚廻り古墳群出土埴輪	重要文化財	19850606		群馬県	高崎市緒貫町992-1	渡良瀬川流域の西の扇状地に位置した七基からなる古墳群から出土	群馬県立歴史博物館
7 埴輪男子倚像	重要文化財	19580208		群馬県	群馬県伊勢崎市三光町6-10	群馬県前橋市(旧勢多郡上川原村)出土	公益財団法人相川考古館
8 埴輪男子立像	重要文化財	19580208		群馬県	群馬県伊勢崎市三光町6-10	群馬県伊勢崎市大字八丁字榎山出土	公益財団法人相川考古館
9 埴輪男子立像	重要文化財	19580208		群馬県	群馬県伊勢崎市三光町6-10	群馬県邑楽郡大泉町出土	公益財団法人相川考古館
10 埴輪鶏	重要文化財	19590627		群馬県	高崎市緒貫町992-1	群馬県佐波郡埴町大字上武土天神山出土	群馬県立歴史博物館
11 埴輪武装男子立像	重要文化財	19580208		群馬県	群馬県伊勢崎市三光町6-10	群馬県新田郡埴戸村成塚出土	公益財団法人相川考古館
12 埴輪武士出陣埴輪鞍馬踏出土品	重要文化財	20070608		埼玉県	埼玉県中央1-1	埼玉県生田町埴輪塚から出土	鴻巣市
13 埴輪海老14号埴輪出土埴輪	重要文化財	20070608		埼玉県	行田市本丸7-23	埼玉県行田市大字海老	行田市郷土博物館
14 埴輪男子立像	重要文化財	19591218		茨城県		群馬県前橋市本郷出土	茨城県立博物館
15 埴輪雲	重要文化財	19580208		東京都	東京都台東区上野公園13-9	埼玉県松井市大字外山出土	東京国立博物館
16 埴輪家	重要文化財	19580208		東京都	東京都台東区上野公園13-9	宮城県見沼郡西郷町西郷原出土	東京国立博物館
17 埴輪猪	重要文化財	19580208		東京都	東京都台東区上野公園13-9	群馬県佐波郡埴町大字上武土天神山出土	東京国立博物館
18 埴輪馬	重要文化財	19570618		東京都	東京都台東区上野公園13-9	群馬県邑楽郡大川町出土	東京国立博物館
19 埴輪馬	重要文化財	19580208		東京都	東京都台東区上野公園13-9	埼玉県熊谷市大字上中条出土	東京国立博物館
20 埴輪家	重要文化財	19580208		東京都	東京都台東区上野公園13-9	茨城県行方郡玉造町沖洲出土	東京国立博物館
21 埴輪女子倚像	重要文化財	19580208		東京都	東京都台東区上野公園13-9	群馬県邑楽郡大泉町大字高塚出土	東京国立博物館
22 埴輪女子像	重要文化財	19580208		東京都	国立大学法人東京大学 総合研究博物館	栃木県宇都宮市雀宮町小字十里水牛塚出土	国立大学法人東京大学 総合研究博物館
23 埴輪女子像	重要文化財	19580208		東京都	東京都新宿区西早稲田1-9-1	埼玉県児玉郡児玉町出土	早稲田大学
24 埴輪女子立像	重要文化財	19580208		東京都	東京都台東区上野公園13-9	群馬県伊勢崎市大字八丁字榎山出土	東京国立博物館
25 埴輪男子跪坐像	重要文化財	19580208		東京都	国立大学法人東京大学 総合研究博物館	茨城県鹿嶋市野田町青柳字不二内出土	国立大学法人東京大学 総合研究博物館
26 埴輪武装男子像	重要文化財	19580208		東京都	東京都台東区上野公園13-9	埼玉県熊谷市大字上中条出土	東京国立博物館
27 埴輪武装男子立像	重要文化財	19740608	19740608	東京都	東京都台東区上野公園13-9	群馬県太田市(旧新田郡九合村)出土	東京国立博物館
28 埴輪船	重要文化財	19580208		東京都	東京都台東区上野公園13-9	宮城県児玉郡西郷町西郷原出土	東京国立博物館
29 石川県矢野エシロ古墳出土埴輪	重要文化財	19970630		東京都	東京都台東区上野公園13-9	宮城県小松市原町下77-8	東京国立博物館
30 埴輪水	重要文化財	19580208		石川県	石川県小松市原町下77-8	石川県小松市矢野町大字上武土天神山出土	石川県立美術館
31 埴輪男子立像	重要文化財	19580325		石川県	石川県立美術館	石川県立美術館	石川県立美術館
32 埴輪男子立像	重要文化財	19590627		静岡県	静岡県熱海市荒山町26-2	群馬県伊勢崎市高志町出土	財団法人エム・オー・エー 美術文化財団MOA美術館
33 冢形埴輪/壺形埴輪/大阪府八尾市美園町美園古墳出土	重要文化財	19950615		大阪府	南河内郡河南町大字東山299番地	大阪府八尾市美園町美園古墳出土	近つ飛鳥博物館
34 大阪府長原高廻り古墳群出土埴輪	重要文化財	19920622		大阪府	大阪府中央区大手前4-1-32	長原高廻り古墳群から出土	大阪歴史博物館
35 埴輪男子跪坐像	重要文化財	19591218		大阪府	大阪府東淀川区岩瀬町出土	大阪府東淀川区岩瀬町出土	大阪歴史博物館
36 埴輪水鳥/大阪府城山古墳出土	重要文化財	20060509		大阪府	藤井寺市岡1-1-1	大阪府城山古墳出土	藤井寺市
37 埴輪牛	重要文化財	19580208		奈良県	奈良県磯城郡田原市本町出土	奈良県磯城郡田原市本町出土	唐古・継考古学ミュージアム
38 埴輪鹿耳男子像	重要文化財	19411106		奈良県	奈良県磯城郡田原市字園南1-11	群馬県群馬県高崎市高崎町出土	唐古・継考古学ミュージアム
39 埴輪男子胡坐像	重要文化財	19591218		奈良県	奈良県天理市字園南1-11	群馬県群馬県高崎市高崎町出土	公益財団法人大和文華館
40 埴輪男子立像	重要文化財	19591218		奈良県	奈良県天理市字園南1-11	群馬県群馬県高崎市高崎町出土	天理大学附属天理参考館
41 埴輪武装男子立像	重要文化財	19591218		奈良県	奈良県天理市守日堂町25	群馬県群馬県高崎市高崎町出土	公益財団法人大和文華館
42 伯爵長瀬高浜遺跡出土埴輪	重要文化財	19860606		鳥取県	東伯耆郡高浜町大字久留19-1	群馬県群馬県高崎市高崎町出土	天理大学附属天理参考館
43 平所遺跡埴輪鞍馬踏出土品	重要文化財	19770511		島根県	松江市盤町	松江市の東方にある平所遺跡の埴輪鞍馬踏から出土	湯梨在町羽合歴史民俗資料館

3-2. 考察

(1) 埴輪の価値(質)

今回の調査で表3-1を作成した結果、国指定文化財の埴輪(人物、動物)の多くが群馬県内や伊勢崎市内から出土していることが分かりました。

では、なぜこのような質の優れた埴輪が群馬県内や伊勢崎市内から出土したのか、これまで見学した博物館、古墳、資料などを基に考察します。

まず、最大の要因である一つ目の要因は、群馬県内や伊勢崎市内には、お富士山古墳に代表されるような、とても力のある王がいたということです。お富士山古墳は、伊勢崎市内で最大の前方後円墳で、全長が125mあり、県内でも8番目の大きさです。また、こうした県内最大級の前方後円墳は、写真3-2のとおり、特に5世紀の前半に集中して作られてきたものであることが分かります。

写真3-3は、赤堀歴史民俗資料館でお富士山古墳にある長持形石棺の模型を撮影したものです。このような長持形石棺は、全国でも50例ほどしかなく、そのほとんどが関西でヤマト王権を代表する王の古墳に用いられてきました。

関東では、このお富士山古墳の他、太田市天神山古墳と千葉県内2例の合計4例しかありません。このため、お富士山古墳は、ヤマト王権と特に強い結びつきのある王の墓であり、これによりその周辺で質の優れた埴輪が出土することになったと考えます。

次に、二つ目の要因は、王に仕えた人達もまた、有力者が多かったということです。相川考古館長さんから埴輪の解説を聞いた際、「価値の高い人物埴輪は、大きさが大きいだけでなく、両足まで表現されていて、細かいところまで表現されているよ。」と教えていただきました。撮影禁止だったので残念でしたが、武人の埴輪は、よく見ると大きさや形が異なっていました。また、確かに国重要文化財の武人埴輪は、他の埴輪と比べて、武具や足などの表現がとても細かく、正確に表現されていました。こうした武人だけでなく、埴輪を作ってきた職人なども、とても力のある人がいたのだろうと感じました。

最後に三つ目は、優れた埴輪の質を保つことができたということです。出土した埴輪の質を保つためには、開発等によって壊されたりせず、また盗まれずに残っていることが重要ですが、こうした問題が無かったことも大きな要因として考えられます。

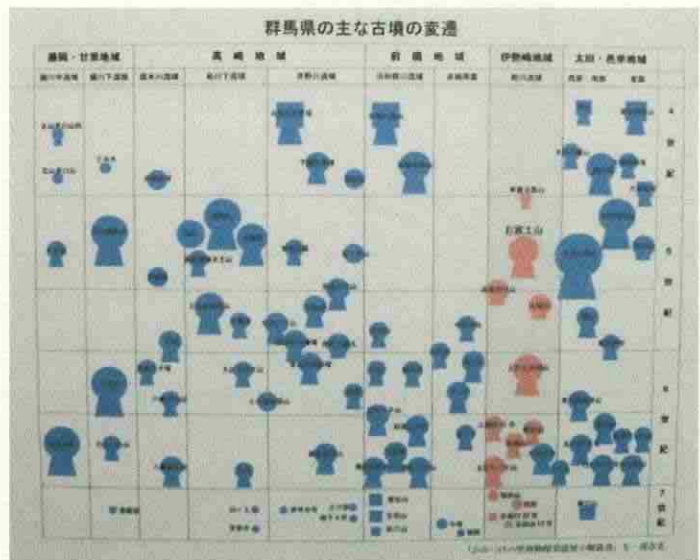


写真3-2 群馬県の主な古墳の変遷



写真3-3 お富士山古墳の長持形石棺

(2) 埴輪の価値（量）

今回の調査で表3-1を作成した結果、国指定文化財の埴輪（人物、動物）の多くが群馬県内や伊勢崎市内から出土していることが分かりました。

この表を単純化し、国指定文化財の埴輪の所在地と出土場所の件数のみを整理したものが表3-2です。この表から分かることは「国指定文化財の埴輪については、所在地が群馬県内や伊勢崎市内になっている数は少ないものの、出土場所では群馬県内や伊勢崎市内が日本一である」ということです。

では、なぜこのような量の埴輪が群馬県内や伊勢崎市内から出土したのか、見学した博物館、古墳、資料等を基に考察します。

まず、最大の要因である一つ目の要因は、群馬県内や伊勢崎市内には、多くの古墳が集中していたということです。写真3-4は、前方後円墳が集中する地域を赤堀歴史民俗資料館で撮影したものです。この展示資料には、全国の前方後円墳が集中している地域が4箇所あり、その中の1つの地域が群馬県であることが示されていました。また、全国の大型古墳の数は、奈良県、大阪府、岡山県に次いで群馬県が全国4位ということでした。

別の赤堀歴史民俗資料館の解説を読むと、埴輪の主な目的は「王が生きている時の活躍ぶりや財力を示すもの。」ということでした。こうしたことから、大型古墳が集中している群馬県内では、力を示す埴輪の数も非常に多かったことが考えられます。

二つ目の要因は、豊かな生活様式があったということです。ヤマト王権時代の馬は、現代でいうところの高級自動車くらい価値のある憧れの動物でした。こうした馬の埴輪だけでなく、猪、犬、鶏などの動物埴輪も多く出土していることから、当時は豊かな生活様式があったものと想像できます。

三つ目の要因は、古墳に残っていた埴輪の発掘が無事に行えたことです。写真3-5は、群馬県立歴史博物館に展示されていた綿貫観音山古墳の模型展示です。群馬県は、古墳時代後の発展が遅く、国の中心都市ではなかったため、土地開発が行われなかったことも多くの埴輪が残っていた要因だと思えます。

表3-2 国指定文化財の埴輪の所在地と出土場所

	所在地※1	出土場所※2
日本全国	43	43
群馬県内	6	18
伊勢崎市内	4	9

※1:文化庁ホームページからダウンロード

※2:今回の調査結果



写真3-4 前方後円墳が集中する地域



写真3-5 綿貫観音山古墳の模型展示

4. 感想と今後の課題

(1) 感想

私は、今回の調査を進める中で、初めて赤堀歴史民俗資料館、群馬県立歴史博物館、相川考古館に行き、古墳や埴輪について学びました。群馬県内や伊勢崎市市内にも、古墳や埴輪を学習することができる博物館があることが分かったので、今後も展示イベント等に参加して、色々な知識を身に付けたいと思いました。

また、群馬県立歴史博物館へ見学に行った際、国宝に指定された綿貫観音山古墳にも立ち寄りました。写真4-1は、2年前、私が小学生のときに撮影した綿貫観音山古墳の横穴式石室の入口の写真です。

この写真を撮影した後、石室に入りました。この石室は、思っていたより大きく、この中に亡くなった人が長い間いたと思うと不思議な気持ちになりました。石室の中は、少し涼しくなっていて、暗く、不気味に思いました。それと同時に、ここまで頑丈な石室を造れたということにびっくりしました。また、今でも忘れられないのは、出口の高さが低いため、石室から出ようとしたところ頭をぶつけて失神しそうになりました。今年こそは、頭上に注意して石室に入室したいと思っておりましたが、新型コロナの感染を防止するため入室できなくなっていて、とても残念に思いました。

しかし今回、群馬県立歴史博物館へ行き、写真3-5の模型展示や写真4-2の埴輪を見学することができました。私が立っていた横穴式石室の入口付近にも、かつては多くの種類の埴輪が所狭しと並んでいたことが分かりました。こんなに多くの埴輪が並んでいる古墳も見て見たいと思い、次回は、高崎市市内にある保渡田八幡塚（ほどたはちまんづか）古墳に行くことを楽しみにしています。

今回の調査で表3-1を作成した結果、国指定文化財の埴輪（人物、動物）の多くは、伊勢崎市外に保存されているものの、実は伊勢崎市市内で出土したものであることが分かりました。私は、写真3-1の埴輪も全て見たことがなかったので馴染みのない埴輪ばかりでしたが、私が住んでいる伊勢崎市市内から出土していたということを知り、ぜひこれらの埴輪についても実際に見てみたいと思いました。

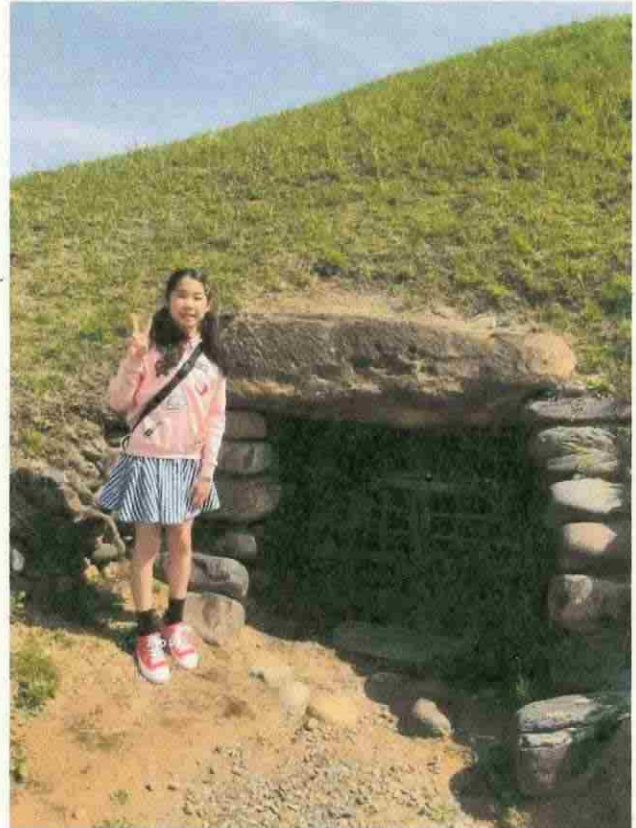


写真4-1 綿貫観音山古墳の横穴式石室



写真4-2 綿貫観音山古墳の埴輪

また、今回の調査ではあまり触れることができませんでしたが、伊勢崎市の隣の太田市内から出土した、日本国内で唯一の国宝の埴輪も、ぜひ一度、見てみたいと感じました。

今回の調査では、群馬県内や伊勢崎市内から出土した埴輪が、日本の埴輪の価値（質・量）に大きく貢献していることが分かり、とても驚き、そして嬉しかったです。

(2) 今後の課題

私が、今回の調査で初めて知ったこと「県内で出土した埴輪は質・量ともに日本一！」をこれまで知らなかったのは、これらを身近な場所で見ることがなかったからかもしれません。

今まで私が、写真4-3のような素晴らしい国指定文化財の埴輪を知らなかったのは、もっと群馬県内や伊勢崎市内から出土した国指定文化財の埴輪を知っていただく機会を増やしたり、多くの人に伝えていく方法があるかもしれません。

こうしたことから、いくつかの今後の課題を整理してみたいと思います。

まず、課題の一つ目は、私達が「県内で出土した埴輪は質・量ともに日本一！」ということを知るための周知の方法です。今後は、群馬県民や伊勢崎市民が埴輪を思い浮かべた時、私のように埼玉県本庄市のゆるキャラ「はにぼん」を想像してしまうことがあってはならないと思います。

日本全国で最も国指定文化財の埴輪が出土している群馬県や伊勢崎市が埴輪の周知に力を入れ、地域の誇りにしていくことが重要だと思います。このため、国指定文化財に指定されている埴輪については、所在地だけではなく、出土した場所について、もっと大きくアピールしていくべきではないかと感じました。

課題の二つ目は、埴輪をもっと身近に感じられるようにすることです。赤堀歴史民俗資料館を見学した際、伊勢崎市内で出土した盾持人物埴輪の顔も笑っていました。このため私は、群馬県や伊勢崎市も本庄市の「はにぼん」と連携できるような、群馬県内や伊勢崎市内から出土した埴輪をPRできるようなキャラクターを作り、イベント等と一緒にPRしていくとよいと思います。また私は、この東国文化を調べる中で、写真4-4のHANIアプリというものを知りました。家族全員で利用しているのですが、主に埴輪を育てていくという、とても単純な内容です。しかし、その中に石室、埴輪、古墳等についてのクイズがあり、それらを解いていくうちに



写真4-3 綿貫観音山古墳の男子埴輪



写真4-4 HANIアプリのチラシ

古墳時代の知識が身に付きます。最初は、興味本位で始めていましたが、私にとっては古墳時代が一番興味のある時代になりました。HANIアプリは、とても知識が増える魅力的なアプリだと思っています。

課題の三つ目は、博物館の見学の方法です。今年の春頃から感染者が増えてきた新型コロナの影響で、長い間、博物館も閉館しており、見学ができない状況が続いていました。今回、赤堀歴史民俗資料館の見学に行った時も、写真4-5のように入口で出迎えてくれた埴輪がマスクをしていました。

今後も新型コロナ感染者が増える可能性があり、その場合には博物館が再度、閉館してしまうかもしれません。このため、埴輪をより見学しやすくするための工夫が必要かと思えます。例えば、実際に博物館に行かなくても埴輪の詳細をインターネットで見ることができるようにしたり、HANIアプリを拡充することができれば、新型コロナ感染を心配することなくパソコンやスマートフォンで気軽に埴輪を見ることができると思えます。

最後になりますが、私は今回の調査を通して、埴輪の作成にも興味を持ちました。そこで、埴輪用の粘土を買い、家族で写真4-6のような小さな埴輪作りを楽しみました。我が家では、埴輪は素敵なインテリアとしても活躍しています。



写真4-5 赤堀歴史民俗資料館の入口



写真4-6 家族で作った埴輪

参考文献

- ・本庄市ホームページ「本庄市の古墳」
http://www.city.honjo.lg.jp/kanko_bunkazai/bunkazai/1405402694640.html
- ・群馬県『東国文化副読本』、令和2年
- ・群馬県『HANI一本』、令和2年
- ・群馬県立歴史博物館『すばらしき群馬のはにわ』、令和2年
- ・群馬県立歴史博物館『群馬県立歴史博物館常設展示図鑑』、平成29年
- ・伊勢崎市教育委員会『伊勢崎市の文化財』、平成9年12月
- ・文化庁ホームページ「国指定文化財等データベース」
<https://kunishitei.bunka.go.jp/bsys/index>
- ・文化庁パンフレット「未来に伝えよう文化財～文化財行政のあらまし～」
- ・東京国立博物館ホームページ
https://www.tnm.jp/modules/r_collection/index.php?controller=dtl&colid=J20711
- ・群馬県立歴史博物館ホームページ
<http://grekisi.pref.gunma.jp/>
- ・群馬県「HANIアプリ」チラシ